

大正6年(1917年)、台風による大雨で淀川本川右岸大塚堤防(現在の高槻市大塚町)が決壊し、甚大な被害をもたらしました。

大塚切れの教訓を風化させることなく、被災者への追悼の意ならびに先人への敬意と感謝を表すとともに、今後の治水対策について一層の努力を積み重ねる決意を再確認するため、高槻市主催の大塚切れ伝承式が開催されました。

高槻市長、淀川河川事務所長による挨拶の他、高槻市職員及び淀川河川事務所の若手職員による碑文の朗読と決意表明が行われました。引き続き、関係機関と連携しながら治水対策を進めてまいります。

概要

日 時: 令和8年10月1日(木) 9時35分～9時45分

場 所: 大塚切れ洪水記念碑前

出席者: 濱田高槻市長、西澤淀川河川事務所長 他 約30名

記念碑位置図



国土地理院地図に、「自然災害伝承碑」として登録されています！



<大塚切れ洪水記念碑>

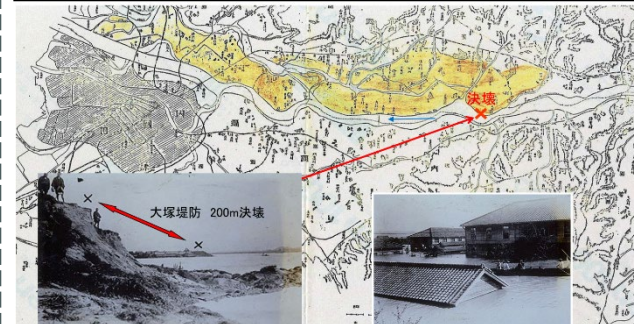


式典参加者



当時の浸水状況

- ・大正6年9月29日未明から30日まで降り続いた大雨により淀川や木津川の他、琵琶湖流域でも各地で破堤氾濫が続出。
- ・淀川では、右岸側の大塚地点の堤防が200mに渡って決壊。



高槻市三島江兵隊舎の浸水状況

式典の様子



～大塚切れ洪水記念碑 一部抜粋～

<原文>

淀川水流千古 變災來自有時 世人能思天意 居安必勿忘危

<要約>

淀川の水は永遠に流れ続け、災害となって降りかかってくるときもある。

人はそれも自然の摂理と受け止め、安楽に暮らしていても、絶対に危機のあることを忘れてはならない。

【問合せ先】

国土交通省 近畿地方整備局 淀川河川事務所 流域治水課

TEL 072-843-2861

